

第2節 社会的総資本の再生産と流通①—単純再生産

第2節の課題：個別資本の運動が、どのように絡み合って、社会的総生産物が交換されあい、社会的総資本の再生産が行なわれていくのか

(1) 再生産表式論の課題

① 分析の課題

(a) 資本流通の絡み合い

個別資本 K_1 (生産手段を生産) の循環の運動

$G-W \cdot W'-G'$ のうち $W'-G'$ (商品資本の貨幣への転化) が可能となるには
(W' は生産手段であるから)

他の個別資本 K_2 の貨幣資本の生産手段への転化 _____ (P_m) と対応していることが必要

(b) 資本流通と所得流通の絡み合い

K_2 の生産する生産物が消費手段であれば、 K_2 の商品資本の貨幣への転化 _____ は

{ 資本家の _____ 価値による消費手段購入
労働者の _____ による消費手段購入

と対応している必要がある

⇒ 個別資本の循環運動は _____ 流通に規制されている

{ 資本家の消費は $W'-G'$ によって規制
労働者の消費は $G-W(A)$ によって規制

⇒ _____ 流通は個別資本の循環運動に規制されている

* 資本流通と所得流通の絡み合いの図解

個別資本の循環 { $K_1 : G-W \cdot W'-G'$
 $K_2 : \quad \quad G-W \cdot W'-G'$

{ 労働者の所得流通 $W(A)-G-w$
資本家の所得流通 $W'-G'(\Delta g)-w$

個別資本の循環は、流通過程において

他の個別資本の循環および個人の所得流通と相互に絡み合い・制約しあう関係にある

個別資本の循環＝個別分散的に無政府的に行なわれている

⇒ 総生産物＝総商品資本の流通過程における交換

⇒ 個別諸資本の _____ と資本家・労働者の _____ ⇒ 次の循環運動

*総体として_____関係の再生産＝個別諸資本と資本家階級・労働者階級の再生産

再生産表式論の課題：社会的総生産物の流通を媒介として，社会的総資本の再生産がどのようにして行なわれていくのか，そこにはどのような問題が含まれているのかを明らかにすること

② 分析の限定・注意点

(a) 社会的総資本の再生産の分析

たんなる流通過程だけの問題の分析

流通を媒介として，社会的総資本が相互にどのような関連を持ち，その再生産が行なわれていくのかという諸条件の解明

(b) 再生産の理想的状態の想定

前提：諸生産物の「均衡」＝_____どおりの交換

＝社会的総資本の再生産の_____的状态を想定

⇒社会的総生産物の価値的・素材的補填*の総体

⇒社会的総資本の再生産の基本的な関連・諸条件を解明

*社会的総生産物の価値的・素材的な補填：生産によって生産物に移転，あるいは失われた生産資本が価値的に，また素材的にどのように補填されるのか

現実の再生産の運動の分析？ _____

現実の再生産 ＝さまざまな不均衡・変動や景気_____

これらを直接に分析するものではない

再生産の理想的状態の前提

資本主義的再生産過程に，そのような「均衡」をたえず実現していくメカニズムがある？ _____

再生産表式分析で明らかにされる再生産の諸条件

＝現実においては「_____」と「異常な経過」が生じる可能性が豊富に存在することを示す

(c) 分析の次元，2大階級，外国貿易

i) 価値・剰余価値の次元の分析

より現実に近い生産価格や市場価格次元ではない

ii) 2大階級

経済は産業資本家と労働者の2大階級で成立：商業資本や国家は_____

iii) 外国貿易

一国経済＝クローズド・システム：外国貿易は_____

*課題＝再生産の基本的関係の解明のための方法的限定

③ 方法的特点

社会的総生産物の分割

社会的総生産物を、再生産においてはたす役割の違いからみて素材的にまた価値的に分割し、それぞれの部分がどのように転態されるのかを考察する。

(a) 素材的な分割

総生産物を生産手段 W_1 と消費手段 W_2 とに分類

$$\text{生産部門} \left\{ \begin{array}{l} \text{生産手段生産部門} = \text{I 部門} \\ \text{消費手段生産部門} = \text{II 部門} \end{array} \right.$$

(b) 価値的な分割

生産手段の価値 _____ 部分 C

価値生産物のうち _____ の価値に等しい部分 V

資本家の取得する剰余価値 M

の 3 つの部分に分割

	生産部門	価値視点		
		価値移転部分	価値生産物	
使用価値視点	I 生産手段			
	II 消費手段			

(c) 社会的総生産物の表示

$$\text{I} \quad C_1 + V_1 + M_1 = W_1$$

$$\text{II} \quad C_2 + V_2 + M_2 = W_2$$

蓄積が行なわれる場合

剰余価値のうち追加生産手段 MC, 追加労働力 MC, 資本家の消費 MK に分割

$$\text{I} \quad C_1 + V_1 + MC_1 + MV_1 + MK_1 = W_1$$

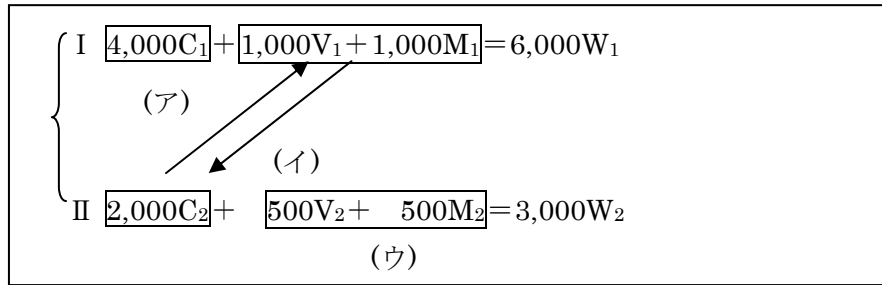
$$\text{II} \quad C_2 + V_2 + MC_2 + MV_2 + MK_2 = W_2$$

(2) 単純再生産

単純再生産の分析から出発するのは

1. 拡大再生産過程の分析の _____
2. 単純再生産は拡大再生産の _____ を構成

① 3つの流れ



(a) I 部門内転態部分(ア)

$4,000C_1$ は I 部門の生産物のうち

1. 次年度の生産のために新しい _____ 手段によって補填されるべき部分
2. _____ 手段の形態をとって存在

⇒ I 部門内部の資本家相互の生産手段の交換

⇒次年度の生産に必要な新しい生産手段を取得

*販売と購買の _____ が「均衡」のための必要条件

→③ 固定資本の補填問題(流通の特殊性)

(b) 部門間転態部分(イ)

i) $1,000V_1 + 1,000M_1$

1. I 部門の生産物 = _____ 手段として存在
2. 販売⇒ _____ に転化

⇒労働者の賃金と資本家の剰余価値 ⇒ _____ 手段の購入に充てられていく部分

ii) $2,000C_2$

1. II 部門の生産物 = _____ 手段として存在
2. 販売⇒ _____ に転化

次年度の生産のために

⇒生産過程で消耗した _____ 手段を補填 = 新しい _____ 手段の購入に充てられる部分

iii) $1,000V_1 + 1,000M_1$ と $2,000C_2$ との転態

1. $1,000V_1 + 1,000M_1$ の生産手段⇒ II 部門に販売
2. I 部門の資本家・労働者が $2,000C_2$ の _____ 手段を II 部門から購入
3. この部門間の転態により

I 部門の労働者・資本家は必要な _____ 手段を取得

II 部門の資本家は次年度のための _____ 手段を取得

iv) 単純再生産の部門間均衡条件

$$1. V_1 + M_1 = C_2$$

社会的総生産物の _____ とおりの交換＝単純再生産が順調に進むための _____ 条件

2. この条件がみたされなければ⇒均衡の破壊＝再生産の「異常な経過」が不可避

(c) II 部門内転態部分(ウ)

1. II 部門の生産物＝ _____ 手段として存在

2. II 部門の資本家から _____ 部門の労働者・資本家(消費者)が購入

3. II 部門の資本家は販売によって _____ を取得

⇒次年度の生産に必要な _____ 手段の購入・自分の生活に必要な消費手段を購入

(d) I 部門の生産の相対的独立性

個人的消費に直接結びついているのは _____ 部門の生産のみ

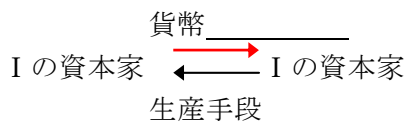
I 部門の生産，特に I 部門内転態部分は消費から相対的に _____

部門間転態を通じて _____ 的に消費と関連

② 貨幣による諸転態の媒介と出発点への還流

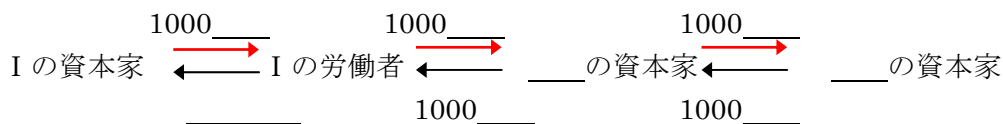
以上の転態関係は貨幣によって媒介されている。再生産表式論では，あらかじめどれかの資本が商品の流通を媒介する貨幣を所有していることが前提されているが，この貨幣は 3 つの転態を媒介した後に最初に貨幣を持っていた所有者に還流する。

(a) I 部門内転態

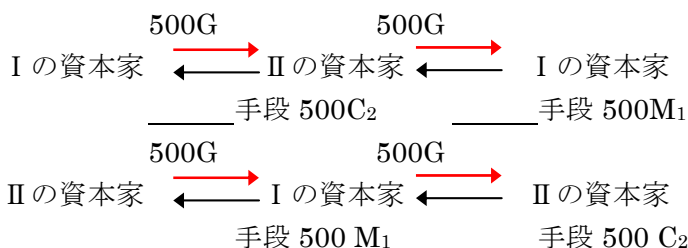


(b) 部門間転態

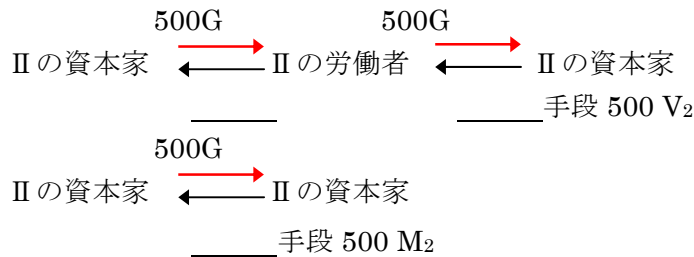
i) 資本家と労働者の取引



ii) I, II 部門の資本家間の取引：両部門の資本家が各々 500 の貨幣を所有していることを前提



(c) II 部門内転態



①の諸条件+(a)~(c)の転態で貨幣の出発点への還流(=販売と購買が_____しないこと)が「均衡」のための必要条件

③ 固定資本の補填

固定資本の流通の特殊性

設備投資(工場・機械設備等の購入) = _____ 的購買

購入した設備による生産・販売 = _____ 的販売

個別資本レベルで販売と購買の時間的分離は_____

社会的総資本の再生産において、耐久的な労働手段に投下された固定資本の補填はどのようにして行なわれるか。

(a) 社会的総生産物における販売と購買の不一致の可能性

全資本が同じ時期に固定資本の投下(F_G)

⇒それ以降の耐用期間中、この固定資本の価値移転部分(f)の購入はない

*再生産の「正常的経過」は_____

販売と購買の不一致の例

[例] II 部門の固定資本総額 = 2,500F

固定資本の耐用年数 5 年で 1 年の価値移転額は $500f_2$ とする

ある年度の不変資本の価値移転額 $2,000C_2$ のうち

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{更新時期にきた労働手段の現物更新} = 500 F_G \\ \text{流動不変資本の価値移転額} = 1,500r_2 \end{array} \right.$$

II 部門の

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{生産手段需要額} = \text{_____} + 1,500r_2 \\ \text{消費手段供給額} = \text{_____} + 1,500r_2 \end{array} \right.$$

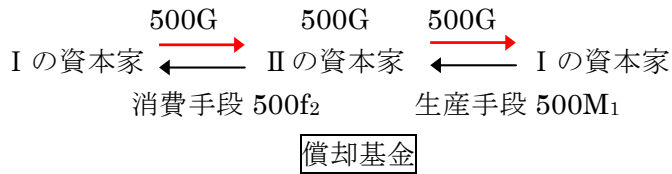
I 部門の生産手段供給額と消費手段需要額 = $1,000V_1 + 1,000M_1$

*生産物の需給「均衡」は保たれている

次年度に更新時期の労働手段がなかったら？

生産手段需要 = $500F_{G2} + 1,500r_2$

消費手段供給 = $500f_2 + 1,500r_2$



I の資本家：500G によって消費手段 $500f_2$ を購入

II の資本家：償却基金の _____ のみ，労働手段は購入 _____

生産は $V_1 + M_1 = C_2$ の均衡条件をみたしていても

生産手段の需要 _____ 供給，貨幣も出発点に還流 _____

(b) 労働手段の理想的年齢構成

固定資本の補填が順調に進むための条件は何か？

毎年 $500M_1$ の労働手段需要が必要

⇒ II 部門の $500f_2$ の消費手段販売額と等しい固定資本の _____ が必要

労働手段の理想的年齢構成

労働手段年齢	固定資本額	価値移転額	現物更新額					
A グループ 5 年	500F							
B グループ 4 年	500F							
C グループ 3 年	500F							
D グループ 2 年	500F							
E グループ 1 年	500F							
合計	2,500F	500f	$500F_G$	$500F_G$	$500F_G$	$500F_G$	$500F_G$	$500F_G$

* 労働手段の価値移転総額 = _____ 額

固定資本をめぐる販売と購買の不一致の可能性は II 部門の労働手段だけ？ _____

⇒ _____ の生産部門の労働手段が理想的な年齢構成となっている必要

資本主義的再生産過程において，労働手段の年齢構成を理想的な状態にしていくメカニズムは存在するか？この需給不均衡は価格メカニズムで調整されるか？

(a) の販売と購買の不一致の例 = 生産手段の需要 _____ 供給

⇒ どちらかの部門で固定資本投資の _____ が必要

But 需要不足⇒価格_____→Ⅰの生産・投資_____→剰余価値減少・雇用減少

消費需要減少→Ⅱの生産・投資_____

特別剰余価値の獲得をめぐる新生産方法の導入・普及の強制メカニズム

⇒労働手段の年齢構成はかたよる可能性が_____

⇒固定資本の補填をめぐってきわめて深刻な販売と購買の_____

=販売総額と購買総額との乖離が生じる可能性_____

④ 価格メカニズムによる均衡化作用

単純再生産の均衡条件という場合、(1)の②の部門間均衡条件だけが注目される傾向があるが、この条件は均衡のための必要条件にすぎない。この条件は、均衡のためには少なくともⅠ部門の生産物＝生産手段のうち、不変資本の価値移転部分以外の生産手段とⅡ部門の生産物＝消費手段のうち不変資本の価値移転部分とが等しいように生産がなされている、ということを示しているにすぎない。

(a) 社会全体で供給 S＝需要 D の場合

ある年度に次のような部門構成だったとする

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{Ⅰ} \quad 3,600C_1 + 900V_1 + 900M_1 = 5,400W_1 \\ \text{Ⅱ} \quad 2,400C_2 + 600V_2 + 600M_2 = 3,600W_2 \end{array} \right.$$

生産手段：需要 $3,600C_1 + 2,400C_2$ _____ W_1 供給
消費手段：需要 $(900V_1 + 900M_1) + (600V_2 + 600M_2)$ _____ W_2 供給

この需給関係は何をもたらすか？

生産手段の需給関係＝S _____ D⇒価格_____
消費手段の需給関係＝S _____ D⇒価格_____

⇒_____部門から_____部門への資本移動

⇒生産手段の生産_____・消費手段の生産_____

⇒均衡が達成される方向に部門比率が変化

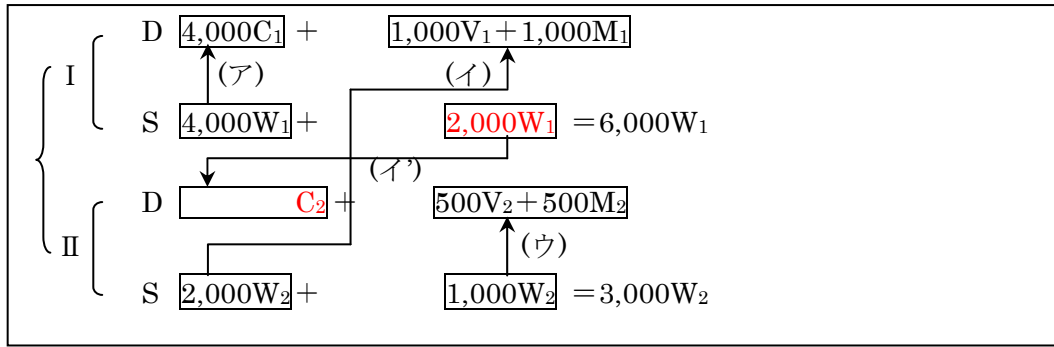
*価格メカニズムによる需給均衡化

⇒(2)の①のモデル・部門構成で資本移動は停止

(b) 社会全体で S≠D の場合

労働手段の年齢構成が理想的でない場合

供給額＝価値移転額_____現物更新額＝需要額



生産物の価値構成(両部門の供給)は均衡条件を満たしている

(ア)・(ウ)は自部門内の転態で需給一致とする

価値移転額≠現物更新額の場合

(イ)は I 部門の資本家の貨幣投入で順調に交換されとする

この交換で II 部門の資本家が取得した貨幣のうち

500G を償却基金の積立として現物更新しない(イ') 場合はどうなるか?

価格メカニズムはどう働くか?

生産手段：需要 $4,000C_1 + 1,500C_2$ _____ W_1 供給
消費手段：需要 $(1,000V_1 + 1,000M_1) + (500V_2 + 500M_2)$ _____ W_2 供給

生産手段の需給関係 = S _____ D ⇒ 価格 _____
消費手段の需給関係 = S _____ D ⇒ 価格 _____

⇒ _____ 部門から _____ 部門への資本移動

⇒ 消費手段の生産 _____ ⇒ S _____ D ⇒ 価格 _____

価格メカニズムによって需給は均衡化 _____

* 逆に現物更新が集中し、生産手段の $S < D$ なら?

以上のように、再生産表式分析を行なう場合には、貨幣の還流、固定資本の補填の問題のもつ意味を常に考えておく必要がある。特に、表式を一般化して(文字に置き換えて)数式展開を行なおうとするときにはこの問題を見逃していないかどうか注意が必要である。